

第3回 十勝川外減災対策協議会 議事概要

日時：平成29年6月29日（木） 14:00～16:00

会場：幕別町百年記念ホール 講堂

委員：21名

帯広開発建設部長、北海道十勝総合振興局長、北海道十勝総合振興局副局長、釧路地方気象台長、帯広市長(副市長)、士幌町長、上士幌町長、鹿追町長(副町長)、新得町長、清水町長(副町長)、芽室町長、中札内村長(総務課長補佐)、更別村長、大樹町長(副町長)、広尾町長(副町長)、幕別町長(副町長) 池田町長、豊頃町長、本別町長、陸別町長、浦幌町長

※音更町長、足寄町長は欠席

※括弧内は代理出席

<議事内容>

- ・水防災意識社会再構築に向けた取組
- ・減災対策協議会規約改訂(案)について
- ・北海道管理河川における現状の水害リスク情報や取組状況について
- ・「概ね5年で実施する取組」のフォローアップについて
- ・今後のスケジュールについて
- ・情報提供
- ・意見交換

<議事概要>

芽室町長 水害サミットに参加して根本的に私の考え方が間違えていたと思わされる点があり、一つは河川管理者がしっかりしていれば災害は起きないと考えていたが自然災害である以上災害はあって当たり前ということ、もう一つは住民は逃げないことが当たり前ということであり、これまでの認識が甘かった。住民アンケートでは、「避難所は行政が運営して当たり前」という認識の住民が多く、行政と住民が一体となって避難所運営するといった情報の発信力の弱さを感じた。また、昭和47年にも堤防が決壊するといった今回と同様の災害が起きており、私と副町長は実経験として災害対策本部の運営方法などは自らの中に持っていたが、これをタイムラインとしてとりまとめ、町職員全員に引き継ぐと良いと感じた。今回の災害対応で首長として判断を迫られた際に後ろ盾がなかったため不安だったが、TEC-FORCEから橋梁の被害の調査書を報告されたときには、助けてもらっても良いのだと思った。さらに、農地復旧に河川掘削土を利用できたのは北海道開発局の存在があればこそで

あった。また、「災害時にトップがなすべきこと」は水害サミットでまとめられたものに、熊本や東北等の地震の経験も含めて更新されたもので、非常に有効である。

気象台長 (パンフレットを用いて) 気象警報等になり得る可能性を5日前から提供することとした。また、地図上にメッシュあるいは河川に着色することで、大雨や洪水の危険度を視覚的にわかりやすい形で提供することとした。避難勧告等にも活用願いたい。

池田町長 ハザードマップは実際の雨量に基づいて作成されるのか。また、雨量、水位の観測を密に実施していただくとともに、今回の出水を踏まえた検証も実施していただきたい。

事務局 開発局で検討した洪水浸水想定区域図はすでに公表しているが、1000年に1回程度の確率を越える規模の雨量でシミュレーションしている。今後は、洪水浸水想定区域図をもとに各市町村においてハザードマップを作成していただくことになる。検証はしっかりと取り組んでいきたい。

気象台長 雨量はアメダスのデータだけでなく、開発局や北海道の観測データを用いるとともに、レーダ解析により面的に把握している。メッシュ情報はこれらを反映しており、利用いただきたい。

上士幌町長 音更川は直轄河川と補助河川の区分けはあるが、情報は一元化して欲しい。また、今回の出水では利水ダムの事前放流によって被害軽減に努めていただいたところだが、今後は降雨予測も重要であり精度を高くしていただきたい。昨年度の降雨は地下水に関する有効なデータを与えてくれたものであり、今後はこのようなデータを利用し、事前の危険情報等を提供いただきたい。

更別村長 台風が去った後に被害が出ており、農地の滞水時間が他の市町村よりも長く、伏流水の影響と考えている。地面の中をどのように水が流れていったかを把握し、対策を検討しなければならない。

帯広開発部長 更別村のほかに音更町、鹿追町でも同様の被害があった。伏流水については、今後、農業部門で調査・対策を検討する予定。

本別町長 河道掘削、河道内樹木の対策、ダムの堆砂対策、流木・埋れ木対策が重要であるため、連携して取組を続けていくことが大事である。

新得町長 避難生活者の健康管理が重要である。広域の自治体及び開発局、北海道、気象台等で連携した訓練等を行いたい。また、昨年出水時の TEC-FORCE はありがたかったので、もう少し長く滞在していただきたかった。

士幌町長 災害時の情報伝達のため、生きた訓練が重要である。水防演習のような大規模なものでもなくとも、水防訓練も実施していただきたい。